

カラスの警戒声（CCW）を用いたモモの被害対策実証

1 背景

- 実証地区：岡山県美作市勝田宗掛地区
- 被害発生時期：6月初旬～9月中下旬
- 袋掛け後に群れが飛来すると、大量の落果被害が発生
- 作付けの少ない晩生品種に被害が集中する傾向



2 方法

- 使用機器 (株) CrowLab (クロウラボ) 製CCW (Crow Controller Wide)
- 特徴
 - カラスが群れに伝える警戒声を再生する装置
 - 設定したタイミングで音源を変えることで、カラスの慣れを防ぐ
 - AC100Vの電源供給が必要
 - 防滴仕様 (IPX5) 屋根なしの環境では、簡単な防水処理が必要
- 費用 リース契約のみ、5.5万円/基・月 (但し、最低2ヶ月の契約が必須)
- 実証場所 例年、群れの飛来による被害に困っていた地区内の2園地 (各1ha程度)
- 実証期間 令和2～4年度：6月初旬～9月末



(株) CrowLab製CCW



現地での設置状況



音声に反応して
上空を旋回するカラス

3 結果と考察

- 3年間の実証では「群れ」の飛来や被害は発生せず、被害の大幅な軽減効果が認められています。
- 一方で、「地ガラス※」の行動には徐々に慣れが見られ、2年目の中盤以降は、毎日2～3果の被害が発生するようになりました。
※ 園地周辺に定着している2～3羽の繁殖個体のこと
- 県内他地区の実証でも「群れ」に対しては明確な被害軽減効果が認められています。

4 その他

- カラスの警戒声による追い払いは、鳥獣被害防止総合対策交付金の補助対象となる場合があります。(詳細は、市町村の担当課までお問合せください)
- 問題の根本解決のためには、ゴミ捨て場等のエサ源の管理や捕獲による生息数低減の取り組みが不可欠!
- ヒヨドリやメジロによる被害抑制には効果がありません。(防鳥網等の対策が必要)
- 一定の音声を常時再生するタイプの威嚇装置では、慣れが早まり短期間で威嚇装置の効果が消失することが確認されています。